

第7回太平洋学術中間会議

1. 主催：日本学術会議
第7回太平洋学術中間会議，他
- 後援：日本気象学会，他
2. 開催期間：1993年6月27日—7月3日（7日間）
3. 開催場所：沖縄コンベンションセンター
沖縄都ホテル
メルパルク OKINAWA
4. メインテーマ：—「太平洋；文化と自然の十字路口」
サブテーマ 1. 太平洋における文化の交流
2. 太平洋における種の文化，分散と保全
3. 太平洋における開発および自然環境
保全の適正な技術と政策
5. 分科会：1—25
16) 海洋科学，19) 気象学，20) 自然災害
防止，22) 社会情報および教育，23) 固体
地球科学 他
6. 問い合わせ先：
第7回太平洋学術中間会議事務局
〒903-01 沖縄県西原町字千原1番地
琉球大学庶務部国際主幹室内
TEL 098 (895) 2221 内線 2126, 2027

編集後記：ここ数年のワープロ，パソコン等の普及は目をみはるものがあります。そして，これらを使用したOA化により，いろいろな作業や仕事が，以前と比較にならないほどはるかに能率的になりました。

『天気』の編集現場でもOA化の波が着実に進んでいます。印刷方式についてCPS方式に移行する方向で準備が進んでいますし，原稿もフロッピーベースでの受付も認められようとしています。また，天気の記事のインデックス作成にはパソコンのデータベースが活用されています。実際，現在集められている原稿の大部分は，すでにワープロによる印刷であり，編集作業において読みやすく，かつ扱いやすくなり，判読不能な文字やぐしゃぐしゃに修正された文章に悩まされた原稿用紙の場合と比較して，ずいぶん便利になったものだと思います。

OA化によって，確かにひとつひとつの仕事は楽にな

りました。しかし，それによって空いた時間はどうなったでしょうか。かつては，これらの時間は人間的な創造的な活動に向けられる，といったことがまことしやかに宣伝されていました。しかし，残念ながら，このような活動に向けられることはなかったようです。仕事が早くなった分加速された情報化社会に追いつくために仕事が増え，ますます忙しくなっている感じがします。

どんどん加速されていく世の中で，まわりに流されず（あるいは流れに乗り），しっかりした自己を持ち続けるのは相当なテクニックか勇気が必要なのではないでしょうか。どちらも持っていない場合は努力しか無いようです。

ああ，ミミズの這ったような文字がなつかしい。

（馬場 厚）